

山口県病院協会 会報

2015 **4月号** No.47

- 発行日 平成27年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 木下 毅
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人協愛会 阿知須共立病院

〒754-1277

山口市阿知須4841番地 1

電話 0836-65-2200 (代表)

FAX 0836-65-4436

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
四県病院協会連絡協議会報告	6 ページ
研修会報告	6～7 ページ
諸会議報告	8 ページ
事務長部会コーナー	8 ページ
事務長部会研修会報告	9 ページ
お知らせコーナー	10 ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



医療法人協愛会
阿知須共立病院

病院長 三好 正規

当病院の歴史は、明和7年（1770年）山口県萩の地に始まり、以後連綿として現在に至っておりますが、昭和33年、医療の理想を実現するため、当地に医療法人協愛会阿知須共立病院を設立してからは57年目を迎えます。この長い医療の歴史の中で積み上げてまいりました貴重な財産というべき地域の皆様と睦みあい、信頼しあう関係を、今後も医療・予防・ケアの中で育んでまいります。

医療におきましては、急性期から慢性期までを担い、地域のニーズに応えるべく、「救急指定病院」として適切な医療サービスの提供を心がけております。併せて、高い専門性を求められる患者様には、近隣の中核病院に紹介・搬送できるよう密接な病病連携をとっております。

また、訪問看護、訪問診療を取り入れ、在宅で安心して看護、診療が受けられるよう在宅医療の質の向上にも努めております。

一方、職員のモチベーションの向上を図るため新人事制度を導入し、教育・育成を積極的にいき、福利厚生面でも、寮、食堂などのアメニティーへの配慮、夜間も運営する院内保育所など、働きやすい環境づくりを目指しております。

近年の厳しい医療情勢下で、新病院建設など考えられないことでしたが、老朽化と耐震化の波には抗えず、また患者様のニーズの変化、職員のモチベーション等の総合的判断から新築移転を決断し、本年2月1日グランドオープンとなりました。

新病院におきましても、当病院の果たすべき重要な役割を強く認識し、さらに地域の皆様のご期待に沿うべく、職員一同高い意識を持って医療・福祉に取り組んでまいります。

〈医療法人協愛会 阿知須共立病院の現状〉

1) 概要

住 所 山口県山口市阿知須4841番地1
電 話 0836-65-2200(代表) FAX 0836-65-4436
理事長・病院長 三好 正規
診 療 科 内科（一般、消化器、循環器、内視鏡、腎臓、肝臓、糖尿病、内分泌、呼吸器、神経）外科（一般、消化器、乳腺、呼吸器、血管）、脳神経外科、整形外科、放射線科、リハビリテーション科
病 床 数 135床（一般病棟45床、医療療養病棟90床）
職 員 数 257名
関連施設 訪問看護ステーションすこやかナース、老人保健施設ニューライフあじす、特別養護老人ホーム白松苑・賀宝の里白松苑など
施設認定 【医療】日本医療機能評価機構認定病院（Ver.6）、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本外科学会外科専門医制度関連施設、日本循環器学会循環器専門医研修関連施設、日本透析医学会専門医制度教育関連施設、日本認知症学会教育施設

【予防医学】人間ドック健診施設機能評価認定施設（Ver.2）、人間ドック健診専門医研修施設、日本脳ドック学会認定施設

2) 沿革（主要なもの）

昭和33年11月 医療法人協愛会 阿知須共立病院開設
昭和63年4月 人間ドック事業開始
平成15年11月 MRI稼働
平成16年8月 電子カルテシステム稼働
平成22年7月 透析センター開設
平成27年2月 新病院グランドオープン（新築移転）

3) 新病院の特徴

新病院建設のコンセプトは、安心・安全、省エネ、癒し・快適性、機能性の追求、地域と共生する病院です。また、新理念の中に、“地域の安心支援拠点”、“皆さまの健康長寿”、“四者満足”を盛り込み、当病院の目指す方向として定めています。これに基づき地域医療に貢献し、総合医療福祉グループとして質の高い連環を追求しております。

協会役員コーナー

ノンテクニカルスキルとしてのチームSTEPPS



岩国市医療センター医師会病院
病院長 内山 哲史

医療には多くの職種の多くの人達がかかわっている。ここで質の高い良い医療を行う為にはパフォーマンスの高いチーム医療が不可欠である。平成25年11月9日～11月10日、大阪市立大学医学部で第15回フォーラム医療の改善活動全国大会in大阪が開催された。これに参加した我々は、ワークショップでWHO種田憲一郎先生からチームSTEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) について学んだ。チーム医療の重要性を唱えるだけで、チームとしての協働の仕方についてエビデンスに基づいた方法を体系的に学習し、身に付けなければうまく協働はできない、この為に米国で作成されたトレーニングプログラムがチームSTEPPSということであった。チームSTEPPSではチーム医療の実践に必要な、リーダーシップ、状況モニター、相互支援、コミュニケーションの4つのコンピテンシー（実践する能力）が掲げられ、更にそれぞれについて期待される「行動とスキル」、「ツールと戦略」が示されている。フォーラムではビデオを見たり、ゲームや作業をしたりしてワークショップ形式で学んだ。これに啓発されて病院にもどってから、年2回開催している医療安全全体研修会で全職種を対象にワークショップを行った。全職員310名中284名（92%）の参加があり、いつも参加が少ない医師も73%の出席率であった。楽しかった、役割分担が大切、リーダーシップ次第で効率アップ、相手が何を求めているか考える必要がある、自分のして欲しいことは声に出す必要があることがわかった等の意見がみられた。テクニカルスキルの重要性はいうに及ばないが、このようなノンテクニカルスキルの学習の重要性も改めて感じている。

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」が始まりました。



玉木病院
病院長 玉木 英樹

主役は萩市の吉田松陰先生の妹で、後に久坂玄瑞の妻となる杉文です。務めるのは井上真央さん。松陰先生は藩校明倫館で兵学を教えました。松下村塾では、高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文ら多くの若者たちが松陰先生のもとで学びました。文は尊敬する兄を慕って集う若者たちに可愛がられ交流を深めます。そして、文は松下村塾の双壁であり、松陰先生から「防長年少第一流」と絶賛された門下生の久坂玄瑞と結婚します。しかし、尊皇攘夷に奔走する玄瑞は、禁門の変で自決。夫を失った文は、毛利家に仕え、跡継ぎである元昭公の守役に抜擢されます。そして幕末の動乱を乗り越え、久坂家を残そうと奮闘します。その後、美和子と名を変え、亡き姉・寿の夫であった群馬県令・楢取素彦の妻となります。群馬の産業・教育の近代化に寄与した楢取は男爵となり、美和子は華族の妻として生きていきます。萩市は2018年の明治維新150年をにらんで歴史をテーマにした観光振興の取り組みを強化しており、注目度が高まることは大きな追い風になると期待しています。萩市ではドラマ館を、萩市の新たな観光スポットとして旧明倫小学校体育館に開館しました。ドラマで実際に使用された小道具や衣装の展示、ロケ映像の上映、ストーリーやキャスト紹介のパネル等の展示、さらには松下村塾セット展示や記念撮影ポイントなど、大河ドラマの世界観を存分に体験していただけますので、ぜひご来館ください。皆様の来萩をお待ちしております！

病院スタッフコーナー

「最近の食べものの考」



美祢市立美東病院
病院長 村上 不二夫

当院は美祢市にあって国保病院として位置づけられております。平たく申しますと、民間病院が成り立ちにくい地区にあります。

患者さんは高齢者や交通の足を確保することが難しい方が多いです。同時に複数の問題を抱えている方が多いです。高齢化率が高いゆえに仕方がないところもありますが、医師を含めて職員はそれぞれが多くの領域をカバーしながら業務をこなしています。皆よくこなしてくれているなあと常々感心しているところです。しかし現状では若い方はあまり積極的に職員採用に応募されないのか、職員自身にも高齢化がみられてきています。

若いとなかなか田舎に行こうとは思わないのでしょうか。私事ですが、最近チーズに興味を持っていて、チーズを何種類かを買っては食べ比べています。またチーズの本も何冊か買い込み読みました。硬いチーズがあったり軟らかくなったところが食べ頃だったり、なかなか奥が深いです。

世界では多くの種類のチーズがあり、寒いところやそうでないところでも作られますし、牛乳が原料だったり山羊が原料だったりするようです。日本での生産は、これは東高西低、ほとんどが北海道を中心とした北の方か、都会という消費地を囲んで存在しています。

田舎では九州の湯布院などでもチーズ工房などで作られていることはご存知かもしれませんが。観光地で消費地でもあり、生乳を原料にしますので、牧場が近くにあることが必要条件だからでしょうね。

そう考えると田舎もいいなあと思ったりもします。やはり口が卑しいのでネオンよりも食べ物かなあと思ったりしているこの頃です。

若い人の地方への移住が増えているそうです。前提として医療や教育が備わっていることだそうです。そういう意味で新たな動きに呼応できるように病院をさらに魅力あるものに変えていきたいと考えています。

精神科看護で学んだ事



医療法人恵愛会 防府保養院
北病棟副主任
看護師 福本 明子

私が精神科病院に勤めて12年が経ちます。うち、3年は看護学生として患者様と接してきました。看護師として働くようになり、学生の頃より疾患や薬物について少しずつ理解し、患者様に関わっていく中で沢山の経験をしました。

ある患者様のことですが、常にイライラしていて看護師の援助に対し拒みや手を振り上げる等の行為があり、私はどう関わればいいのか悩んだ時期がありました。この患者様に対し、苦手意識もあったのですが、機嫌が良い時にお話しをさせて頂いた時、「どうしてイライラするのか自分でもわかりません。何も無いのにイライラするんです。辛いんです。」と言われ、私はショックを受けたのを覚えています。患者様自身が疾患や症状により辛い、苦しい思いをされていたということを改めて知りました。それまで、苦手だなと思って関わっていた自分が恥ずかしく思えました。今は、患者様に関わる際、援助を通して拒否や暴言、抵抗があっても、そこに何か理由や症状に関連したものがあ

るのでは？と考えて関わるができるようになりました。このように、防府保養院での患者様との関わりが、私自身を人として、看護師として成長させてくれていると思います。

これからも、患者様とは、人として一生懸命向き合っていく、この職場の環境に感謝し先輩方や患者様から多くを学び、精神科看護師として更に成長出来たらと思います。

病院スタッフコーナー

寄り添う看護を目指して



医療法人社団生和会
周南リハビリテーション病院
看護主任 清水 朝来子

当院は周南市湯野温泉郷の入口付近に位置し、「地域のみなさまに『安心と生きがい』を永続的に提供する。」という理念のもと、患者さまの視点に立ったあたたかみのある療養環境の提供を目指しています。医療療養病棟、障害者一般病棟、回復期リハビリ病棟に分かれ210床を有す中、医師・看護師・介護士・リハビリスタッフ他の多職種がそれぞれ日々自己研鑽に励みながら明るい職場を作っています。

回復期リハビリ病棟でリハビリ看護を提供することになってから3月で丸5年が経ちました。初めは多職種協働を謳う病棟での看護師の役割について悩むことが多く、現在もその困難さを日々痛感しています。

しかし、患者さまやそのご家族を中心とした医療の提供は自分一人では行えません。看護師が看護師としての役割を果たすことは必然ですが、患者さまが安心して療養、安心して在宅へ復帰するためには各職種が各自の役割を自覚した上で、信頼関係を築いていけるような働きかけが必要になります。患者さまの為にという思いは職員誰もが同様で、誰かが一言声を出せば、その思いは次々とあふれてきます。

昨年法人30周年を迎え、職員一丸で！と勤務中は勿論の事、病院行事も職員全員が参加できるよう協力し合ってきましたが、まだまだ、自分たちは成長できると決意も新たにしました。

医療をとりまく風は穏やかならぬ時もありますが、私たちが提供させていただく看護の形は変わらないと胸にして今後も患者さまの声、思いをそばで聞いていきたいと思えます。

100%の力



医療法人太白会
シーサイド病院
リハビリテーション科
作業療法士 堤 啓貴

「セラピストとして100%の力を持っていなくてもいい。しかし、今自分の持っている力を100%引き出そうという気持ちと行動は忘れないでほしい。」これは、私の母校の恩師からいただいた言葉です。作業療法士として、様々な場所で活動させていただいている私は、今改めてこの言葉に込められた思いを、学び感じとっています。私は今年で臨床経験5年目となり、まだまだ作業療法士としての未熟さや反省を感じる毎日です。その中でも、悩み考えるだけでなく、行動し、今自分のできることは何かを理解し、自分自身を武器にして、力を尽くす。この姿勢こそ、セラピストとして大切なことであると感じています。これからも自己研鑽に努め、患者様の生きる力を支えていきたいと思えます。

また、私は一昨年から、高校生の方を対象にした「職業人講話」での講師を務めさせていただいています。講話内では、作業療法士の業務内容や、私の感じる作業療法の魅力を、将来の社会を担っていかれる方々に伝えさせていただいています。私の作業療法に対する思いを聞いていただき、作業療法に魅力を感じていただいたり、作業療法士を目指されるきっかけの一つになったりするかもしれないと思うと、私は幸せを感じずにはられません。臨床の場にて、患者様へ直接訓練を実施することだけでなく、私が作業療法士として力を発揮できる、大切な場となっています。

私はこれからも追いつめていきたいと思えます。作業療法士として、目の前の患者様の幸せの実現に向けて、考えながら行動し続けるということ。そして、作業療法のすごさ、素晴らしさを伝え広め、後輩の成長の手助けをしていくということ。私の、今できる100%の力をもって。

四県病院協会連絡協議会報告

平成27年1月23日（金）福岡市のホテル日航福岡において岡山・広島・山口・福岡四県の第20回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は、山口県病院協会より木下会長他4名が出席し、他県からの役員26名、今回オブザーバー（大分県病院協会、日本病院会長崎県支部、全日本病院協会長崎県支部）の5名を合わせて総勢35名が一堂に会し、最初に、各県病院協会の事業実施状況について説明があり、続いて各県が提出した議題等について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次のとおり。

- 1) 各県病院協会の事業実施状況について（各県資料交換）
- 2) 四県病院協会連絡協議会の運営について
- 3) 医療介護総合確保推進法への対応について
 - ①地域医療ビジョン作成への取り組みについて
 - ②新たな財政支援制度（基金）への取り組みについて
 - ③地域包括ケアシステム（在宅医療）への取り組みについて（岡山県提案）
- 4) 病床機能報告制度・地域医療ビジョン・基金について（広島県提案）
- 5) 紹介業者を通じた人材確保の状況（山口県提案）
- 6) ①福岡県医師会の診療行為に関連した死亡の調査分析事業
 - ②エボラ出血熱の現状と対応
 - ③参与・各種委員会正副委員長・役員懇談会に関して（福岡県提案）

研修会報告

平成26年度 病院医療事務担当職員研修会

平成27年1月22日（木）、山口県セミナーパークにおいて、病院医療事務担当職員研修会が開催され、116名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

テーマ「医療機関でのクレーム対策」
 講師 株式会社NSコンサルタンツ
 代表取締役 仁科 利文 氏

仁科講師は、病院の事務長としてクレーム対策に取り組んできた経験を踏まえて、「クレーム対応の基本は現状確認」「クレーマーと悪質クレーマーの見分け方」「苦情処理体制作りの基本ポイント」「絶対にやってはいけない対応」「現在の医療訴訟の動向」等について具体的事例を挙げながら解説され、「社会問題化している増加している未収金問題への対応」では、「保険診療・介護保険での契約関係」「債権回収の手段と流れ」「債権管理のポイント」「未収金発生防止策」等について講演された。

参加者は、身近な問題の講演に真剣な眼差しで受講していた。



仁科 利文氏



研修会風景

研修会報告

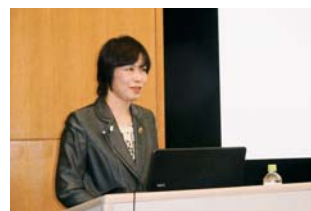
平成26年度 病院看護補助者・介護職員研修会

平成26年12月12日（金）、山口県総合保健会館 第一研修室において、病院看護補助者・介護職員研修会が開催され、190名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

テーマ 「やりがいのある職場づくり」
～“忙しい”だけで終わらせないために～

講師 小野田赤十字病院
看護部長 伊藤 泰枝 氏



伊藤 泰枝氏

テーマ 「認知症ケア」
～人として、専門職として～

講師 医療法人愛の会 光風園病院
看護統括部長 中尾 郁子 氏



中尾 郁子氏

伊藤講師は、「やりがいとは?」「介護の仕事はサービス業」「サービスの品質の測り方」「介護の仕事に期待されていること」について具体的に解説されたのち、やりがいのある職場にするために、介護職に期待されていることをわかりやすく講演された。

中尾講師は、「看護補助者の業務」「認知症ケアの歴史」「認知症患者の看護・介護手法」「認知症の定義」「認知症の人に必ず見られる症状」について解説されたのち、認知症ケアの最大の問題点は症状を理解することの難しさであり、関わる時に留意すべきことを事例を挙げながら講演された。

病院看護補助者及び介護職員を対象とした研修会の開催は、昨年へ続き2回目であったが、参加者は身近な問題の講演に真剣な眼差しで受講していた。



研修会風景



医療法人扶老会
扶老会病院
看護部 看護補助者主任
三嶋 洋子

病院看護補助者・介護職員研修会に参加して

病院看護補助者・介護職員研修会に、参加することができてとても良かったと思っています。

毎日忙しく働いている中、これからの高齢社会に向けて、随分、ケアの質が変わってきました。朝からトイレに行く時間もなく「あ、もうこんな時間」なんて言いながら、毎日かけめぐっています。でも、時間に追われる中でも頑張っている自分を褒めてあげること、患者様のADLの向上に少しでも貢献できていること、それがやりがいであり、自分の実績として誇れる時であるということを伊藤先生の講義から学びました。

私達の介護の仕事は、形のないサービスで物ではありません。行為そのものであり、目に見えない、そして、評価することが難しいものです。患者様の気持ちや状況は絶えず変化しており、その時、その場所で満足いくサービスを提供することが求められています。介護の質を向上するためには、チームで目標を共有し、全員で立ち向かうことが大切だと知りました。やりがいのある職場は、質の高い

介護を提供する努力と、日々進歩する介護に関する知識と技術の学習・実践なくして生まれることはありません。忙しくてもプライドをもってやり遂げることで必ず成果は出る、「継続は力なり」であるというお話にとっても勇気をもらいました。

中尾先生の講義では、認知症にもいろいろなタイプがあることを学びました。そして、私達にも意識改革が必要なことを教わりました。

「看護・ケアは支援者であって、他人を傷つける教育は授けていません。患者様の側に寄り添い、声を聞き、思いをくみ取り、人としてそして専門職として、自分に介護してもらいたいと思われるような介護者になることが大切なことだ。」と学びました。

あっという間の4時間でしたが、今日学んだことを職場に持ち帰り、頑張っている仲間へ感謝し、やりがいのある、誇れる職場でこれからも患者様に笑顔を添えて介護を続けて行きたいと思えます。

諸会議報告

平成26年度 第5回理事会

日 時 平成27年1月16日（金）16：00～17：20
開催場所 新山口ターミナルホテル

【承認事項】

1. 平成26年度医療事務担当職員研修会の開催について
2. 平成26年度第2回事務長部会研修会の開催について
3. 賛助会員加入状況及び加入承認について
4. 平成26年度診療報酬改定影響度調査票について
5. 「検査説明・相談ができる臨床検査技師育成講習会」に対する後援について

【協議事項】

1. 総務委員会報告事項について
2. 第20回四県病院協会連絡協議会提出資料について
3. 平成26年度冬季医療経営講習会の開催について
4. 平成27年度病院栄養関係職員医療安全対策研修会の開催について
5. 平成27年度病院初級職員研修会開催について
6. 第16回医師会役員との懇談会開催について
7. 金融懇談会開催について
8. 平成27年度定時総会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県肝炎対策協議会委員
理事 福本 陽平（再任）
2. 県各種委員会等の結果報告について
 - 神徳理事
 - ・山口県在宅医療推進協議会（11月13日）
高橋理事
 - ・山口県高齢者保健福祉推進会議（11月20日）

【その他】

- ・第10回医療関係団体新年互礼会報告（1月10日）

平成26年度 第4回情報管理委員会

日 時 平成27年3月12日（木）15：00～16：15
開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会・各支部会議報告

開催支部と研修会等テーマは次の通り

【山口・防府支部】

開催日 平成27年2月7日（土）
場 所 山口県立総合医療センター
講 演 テーマ「まるごといのち～ホスピスの現場から～」
講 師 すえなが内科在宅診療所 院長 末永 和之 氏
テーマ「ピンチはチャンス！
～山口県の子の小さな酒造だからできたもの～」
講 師 旭酒造株式会社 代表取締役 桜井 博志 氏



山口・防府支部

【宇部・小野田・美祢支部】

開催日 平成27年2月26日（木）
場 所 国際ホテル宇部
講 演 テーマ「医療介護の一体改革と病床機能再編の方向性」
～地域包括ケアシステムを見据えて～
講 師 A S K 梓診療報酬研究所 所長 中林 梓 氏



宇部・小野田・美祢支部

【岩国・柳井支部】

開催日 平成27年2月27日（金）
場 所 岩国国際観光ホテル
会議内容
1. 認知症疾患医療センターの役割について
2. 病院間の情報交換について
・災害時の対応マニュアル
・人材確保、感染対策他



岩国・柳井支部

事務長部会コーナー

平成26年度第2回山口県病院協会事務長部会研修会報告

平成27年2月19日（木）、新山口ターミナルホテルにおいて、第2回事務長部会研修会が開催され52名の参加があった。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】

テーマ 「人を動かす話し方」

講師 ラジオパーソナリティ

大和 良子 氏



大和 良子氏

講師の大和良子氏は、ラジオパーソナリティ、スピーチコンサルタントとして山口県で主に活動されており、ラジオの生放送番組で話す時に常に心掛けていたり、相手に思いやりを伝えるための声の出し方について講演された。

今回の研修会は、「話し方」という身近な問題がテーマであり、参加者は講師の話に熱心に耳を傾けていた。

研修会終了後に意見交換会が開催され講師を交えて有意義な時間を過ごした。



研修会風景



医療法人医誠会
都志見病院
事務長

嶋崎 隆郎

平成26年度第2回山口県病院協会事務長部会研修会に参加して

研修会当日は寒い日となりましたが、会員病院や賛助会員から52名の方々に参加いただきました。

今回の研修会は「人を動かす話し方」というテーマで、講師にはラジオパーソナリティの大和良子氏をお招きしましたが、医療関連の研修とは一味違った興味深い内容の研修となりました。実は、今回の講師である大和良子氏は、私が講師として推薦させていただきました。大和氏の講演は約2年前に聴講する機会があり、その時は会議のスケジュールの関係でわずか20分程度のお話でしたが、ラジオパーソナリティのプロフェッショナルとしてのお話を聞いた思いでした。今回のお話で印象に残ったのは、毎週月曜日から金曜日（午前7時30分～午前11時）に担当されている番組では、7時30分から8時までは中年の男性役職者に対して、8時から9時までは20歳後半の販売職の女性に対して、というようにリスナーのイメージを時間帯ごとに作り、そのイメージの人物像に話しかけておられるということです。また、異なる人物像に話しかけるため、時間帯によって声の高さや発声方法、さらに方言（山口弁）を使うタイミングなども変えていらっしゃるということです。

リスナーのライフスタイルをイメージし、その人物像が心地良いように話しかける努力をするということは、リスナーへの思いやりに他なりません。私たちも職場での会話において、ともすれば、自分のその日の気分や自分のペースだけで話しがちですが、相手の気持ちを意識した話し方ができれば、コミュニケーションもさらに円滑になるのではないのでしょうか。

医療関連の専門的な知識の習得も重要ですが、今回の研修は、日常生活であまり意識しない「話し方」の重要性を再認識する良い機会となりました。

お知らせコーナー

山口県医師会三役との懇談会

平成27年1月27日（火）、山口市湯田温泉「割烹 ふく田」において、恒例の県医師会との懇談会が開催されました。医師会からは小田悦郎会長他5名、病院協会からは木下毅会長他5名が参加して、診療報酬改定、消費税引上げに伴う影響・県内の医療情勢・地域医療連携・医師不足問題等について活発な意見交換が行われました。

山口銀行との金融懇談会

平成27年2月24日（火）、山口市湯田温泉「古稀庵」において、山口銀行との懇談会が開催されました。山口銀行からは福田浩一頭取他5名が出席、山口県病院協会及び4団体（日本病院会山口県支部、全日本病院協会山口県支部、山口県医療法人協会、山口県精神科病院協会）からは代表役員と事務局長の計5名が出席して、県内の経済金融情勢・医療環境等について意見交換を行いました。

賛助会員の入会申し込みについて

一般社団法人移行に伴い、平成26年度より賛助会員の入会申込み受付を開始しましたが、平成27年3月末までに28社の法人が賛助会員に入会されました。

山口県健康福祉部の組織再編について

健康福祉部では、「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」の着実な推進のため、新年度より、次のとおり組織の見直しを行い、推進体制の整備を行います。

1. こども・子育て応援局の設置

子どもに関する施策推進体制を強化するため、新たに「こども・子育て応援局」を設置し、「こども政策課」と「こども家庭課」の2課体制となります。

2. 医療政策課の設置

医師・看護師等の確保対策・がん対策などの一層の推進を図るため、地域医療推進室を改組し、「医療政策課」を設置します。

3. 宇部児童相談所の設置

相談件数の増加や相談内容の複雑・多様化に迅速かつきめ細かく対応するため、「宇部児童相談所」を設置します。

病院協会の主な行事予定

- 5月15日 第1回理事会（会場：新山口ターミナルホテル）
- 5月27日 山口県病院協会定時総会（会場：山口グランドホテル）
- 6月中旬 医療懇話会
- 6月22日 初級職員研修会（会場：山口県総合保健会館）

編集後記

昨年4月の診療報酬の実質マイナス改定に引き続き、本年4月には介護報酬もマイナス改定となります。新年度のはじめから、この先どんな時代が来るのやらとため息がでます。4月からは、いよいよ県が中心となって、二次医療圏ごとに地域医療構想（ビジョン）の策定が始まりますし、また、一方では、地域医療構想に連動するように、地域医療連携推進法人制度を盛り込んだ医療法の改正も進行中のようです。同一医療圏の医療機関の機能分担や連携だけでは不十分とのことから、私的病院、公的病院をはじめ自治体病院や大学病院、更に診療所や介護施設までも含んだ統合、いわゆる非営利ホールディングカンパニー型法人が生まれる日もそれほど遠くないのかもしれませんが、確かに、グループ内でヒト、モノ、カネや情報を共有し有効に活用することで効率化が図られることは理解出来ますが、理念も文化も異なる組織が集まって、そこで働く人たちは幸せになれるのでしょうか。（名西史夫）